

2021年度実践交流会アンケートへの質問対応

2021年度の実践交流会は、

質問1. オンラインを使っている取り組み、そのやり方が知りたい。(87.5%の方がやってみたいと回答)

1. オンライン開催方法

① Zoom 利用

- ・メリット
 - ・感染症などで外出できないとき、家からでも参加できる。
 - ・小さなお子さんがいても、耳だけ参加できる。(小さなお子さんとの外出は大変)
 - ・遠距離の企画でも参加しやすい。(移動時間がない)
- ・デメリット
 - ・顔を合わせていないと、話にくい。(ファシリテーターの存在が実開催よりも重要)
 - ・ルール作りが必要。・子育て企画など、その中で聞いたことは口外しないなど。
 - ・顔出しをどうするか。

② Youtube 利用

- ・メリット
 - ・アーカイブなどの利用でいつでも空いている時間に利用できる。
 - ・何度も確認できる。
- ・デメリット
 - ・編集が大変
 - 例:料理教室などは、編集などが大変。手元と全体を撮影し編集など

必要な機材

- ・PC
- ・マイク(必要に応じて)
- ・カメラ(必要に応じて)
- ・照明(必要に応じて)
- ・Zoom アカウント

必要な研修など

- ・参加者への Zoom などの利用方法のレクチャー
- ・開催者の Zoom 利用方法確認
- ・資料の画面共有方法
- ・参加者への声掛け (ファシリテート)
- ・ハイブリット開催の場合のカメラの配置
- ・参加者確認方法 (待合室作成)

質問2 参加者が講師になるにはどのようにしたらいいのか

月並みですが、参加者同士、参加者と主催者が交流を深めることから始まると思います。

参加者にはさまざまなスキルや資格、または資格はなくても熱い思いやテーマへの関心があったりします。

自己紹介で分かることもあれば、何気ないおしゃべりの中から主催者が💡! って気づくことも。

そのことを地域の宝メモに(紙でも頭の中でも)入れておく。

また、参加者の中にはいませんが知り合いにいたりします。

本人は気づかないかもしれないが CO から見たら宝人! と付き合いを重ね本人の思いを全面的にバックアップする姿勢を見せます。

場合によっては同じテーマの中で細かい関心事や分野が違う仲間を集め、協同で講師になってもらう、もありですね。

質問3. 地域が主体になって取り組む為の支援策は?

地域主体の活動に必要なものは…(いろいろあるとは思いますが、今回は下記のポイントについて)

① 目的意欲の継続

② 参加しやすいしくみづくり

具体的には…

1. 事前(参加メンバーへ伝えていく)

① について

- ・ 目的の共有…

(例:フェスタによる子ども・子育て支援や、地域に活動を見チームせながら協力者を増やすこと)

- ・ 近い目標の設定…

達成感を味わってもらい次に進む意欲促進に。具体的な目標を設定しても。(例:夏のフェスタを開催、安全で子どもも保護者も楽しめるものにする!)

② について

- ・ 協働するための関係性づくり。正しさだけでなく楽しいと思える集まりへ(緩やかな関係)
- ・ 会議だけでなく普段から相談できるしくみの共有(メール+LINE グループなど)

2. 本編(必要に応じて支援していく)

① について

- ・ 必要なタイミングでの、必要な情報提供(事例、調達先、費用など)
- ・ 必要なヒトへつなぐ
- ・ 進めていることを見える化し共有(参加者全員が、短い時間の中で、わかりやすく進捗を追えるように)
…これは支援というよりは、参加メンバーの中で自主的に進められるといいですね。

3. 継続して主体的であるために(参加メンバーへ必要なタイミングで伝えていく)

① について

- ・ これまでの経緯や目的を繰り返し共有しながら、楽しさを思い出してもらう。

質問4. 安心システムと似ている地域の取り組みを知りたい。

⇒「安心システムと似ている」はどんなイメージをお持ちかわからないのですが、「地域住民が地域福祉の充実を自ら考え実践できるように、(資金面も含めて)支援すること」という視点では、以下の2件くらいしか知りません。

① 柏市生活支援体制整備事業

介護保険の地域支援事業として実施しています。地域包括ケアの構築を目的として、地域住民による「たすけあい」と「居場所」「見守り」等の立上げを支援する仕組みです。国の方針として行政は、行政と住民で体制整備を検討する「協議体」とそれを実践していく生活支援コーディネーターを設置します。

柏市では、柏市社会福祉協議会が第一層生活支援コーディネーターを担い、20の地区で第2層生活支援コーディネーターが活動しています。

柏市が取り組んで7年目の今、たすけあい団体(ゴミ出し・草取り・買い物支援・食事作り・通院同行など)が68団体、居場所(NPOなど自力で運営しているものは除き、助成金を受けている所のみ)が20以上立ち上がっています。特にたすけあい団体は、ゴミ出し1回50円、家事援助500円/時間など、介護保険で賄えない支援をしていることは地域の大きな安心です。

私は、光ヶ丘地域の支えあい推進員ですが、光ヶ丘地域には多様な家事支援をしている団体が4つもあり、とても見守りの意識が高く、素晴らしいと思うことが多いです。

② NPO 法人ACT(アビリティークラブたすけあい) ホームページより

ACT 会員が地域でゆるやかにつながり、たすけあうしくみをつくることを目的として主体的に参加できる「地域ACT」の活動が始まっています。

文京・杉並・小金井・武蔵野・世田谷・町田・国分寺の地域で設立。東村山・江戸川も準備会が発足し活動しています。

地域ACTとは

1. 地域ACTは自治体ごとのACT会員の組織体です。
2. 会員のゆるやかなつながりをつくり、たすけあいのしくみづくりをはかります。
3. ACT地域コーディネーターをおき、人、モノ、おカネ、情報のマッチングとコーディネートを行ない、地域の公的・私的資源の活用をはかります。
4. 地域協議会に参加し、SS(市民の、市民による)ネットワーク構想の実現化に向け、地域協議会ごとに策定した市民版福祉計画に沿って暮らしやすい安心のまちづくりを進めます。
5. ACT運動グループに留まらず、必要に応じ生活クラブ運動グループ、生活クラブコミュニティ、自治体内の公的・地域資源ともコンタクトを取り、コーディネートしています。

◎街の縁側もたくさんできているようです。

質問5. 失敗事例はあるか。⇒改善事例に置き換えて考える

企画の失敗事例

失敗事例は

1, オンラインでの開催していた調理企画を対面とオンライン企画に代えたときに

対面での参加者にはよかったが、オンライン参加者にとってはわかりにくい内容になってしまった。

改善➡手順をライブだけではなく、画像を取り直して再度見れるようにし、わからないところをフォローした。

失敗事例ではありませんが、失敗事例の原因になりやすい事として

2, 講師

教える人の力量を事前によく確認できていないと当日サポートがとても過重になる。

運営側の失敗事例になる。

3, 参加者を募る情宣

参加者の状況によって企画の内容や状況が変化するので調整が必要になります。

これも運営側の過重になる要因。

質問6 参加を促すコツは？情宣は？

地域活動への参加動機は社会の役に立ちたい・内容が魅力的・自分の趣味にも合う・健康を維持できるなど多々あるが、心身ともに安心して地域で暮らすことが出来るよう、参加によって役割と出番を発見し、人付き合いを広げ、地域と(の人たち)つながることが大事です。そのことを根気強く伝えていくことが大事ではないでしょうか。

情宣については、①テーマ・日時・こんな人に参加してほしい・目的などを明確に伝え、②情宣は広報とは違い、説明し理解してもらい、共鳴してもらうことで、広まっていくことが狙いで、参加を促すコツの大事な視点でもあると思います。